

＜その 1＞ 出席停止について

(1) 児童（本人）の感染が判明または濃厚接触者*と認定*された場合【出席停止】

- [illegible]

(2) 児童の同居家族が濃厚接触者と認定された場合【出席停止】

区保健福祉センター等関係機関と相談のうえ出席停止とするか否かを、期間も含め個別に対応

(3) 児童（本人）に発熱等かぜ症状が見られる場合【出席停止】

- ① 本人に発熱等のかぜの症状がある場合
開始日：症状の出た日 終了日：解熱剤などを服用せずに快癒すれば、その翌々日
- ② 症状が続き、新型コロナ受診相談センターへ相談した場合
終了日：検体検査を受けず様子見となり、解熱剤などを服用せずに快癒すれば、その翌々日

《症状が無くなったのち2日間の考え方》

	第 1 日	第 2 日	第 3 日	第 4 日	第 5 日	第 6 日
服薬なしで解熱	発熱	▽朝 解熱 ⇒平熱	平熱	平熱	平熱 登校可	
服薬	なし	なし	なし	なし		
	有症状日	症状快癒日	起算第 1 日	起算第 2 日		
服薬中に解熱	発熱	発熱 ▽昼 解熱	平熱	平熱	平熱	平熱 登校可
服薬	服薬中	服薬中	朝から中止	なし	なし	
	有症状日	有症状日	症状快癒日	起算第 1 日	起算第 2 日	

- ③ 新型コロナの検体検査を受けた場合 終了日：陰性となった場合、保健所等の指示する期間

(3-2) 児童の同居家族に発熱等かぜ症状が見られる場合【出席停止】

※児童の同居の家族に、《新型コロナ受診相談センターに相談するめやす》に該当する症状が見られる場合も、「(3) 児童(本人)に発熱等かぜ症状が見られる場合」と同様の取扱いとする。

※健康観察表の「ご家族の状況」欄に健康状態をご記入ください。

《新型コロナ受診相談 センターに相談するめやす》

- 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
- 重症化しやすい方*で、発熱や咳などの比較的小さい症状がある場合
- ＊高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD 等）等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方
- 上記以外の方で発熱や咳など比較的小さい症状が続く場合
- （症状が 4 日以上続く場合は必ず相談してください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに相談してください。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様です。）

※詳しくは本校ホームページ「学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル(第3版)」
(大阪市教育委員会)をご覧ください。

＜その2＞ 学校・学年・学級休業について

（1）児童及び教職員に感染が判明した場合の臨時休業措置

① 学校の臨時休業

感染が判明した時点	休業措置の内容
・ 始業時刻まで	・ 判明日当日及びその翌日※を、学校休業
・ 始業時刻以降、終業時刻まで	・ 翌日※を、学校休業 ・ 判明した時点で、幼児児童生徒の安全に配慮し、速やかに下校（降園）措置を講ずる
・ 終業時刻以降 ・ 学校園の休業日	・ 翌日※を、学校園休業

※学校の消毒や、濃厚接触者の特定等に時間を要する場合は、翌日以降必要な日数

② 当該学級の臨時休業

当該児童等の最終登校日の翌日から14日間の学級休業を行う。

（2）児童の濃厚接触等が判明した場合に臨時休業措置を講ずる基準

① 学級の臨時休業

出席停止事由	本人	学級休業基準
（1）②（濃厚接触）	出席停止	2人以上出席停止になれば学級休業
（2）（家族が濃厚接触）	出席停止	在籍者数の約15%～20%が、出席停止※となれば学級休業 ※（1）②が1人の場合、人数に含む。
（3）（かぜ症状） （3-2） （家族が《新型コロナ受診相談センターに相談するめやす》に該当）		

② 当該学級の臨時休業期間

出席停止となった者の出席停止期間の終了日まで。（ただし、1名以上の出席停止期間が終了することで、学級休業の基準を下回る場合は、当該者の出席停止期間の終了日まで）

（3）学年の臨時休業

学級休業が、当該学年で複数にまたがっている場合学年休業を行う。

（4）学校の臨時休業

学年休業が当該校園において複数にまたがる場合等に、患者数、個別の病状を総合的に判断して、学校の臨時休業を行う。

※詳しくは本校ホームページ「学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル(第3版)」
（大阪市教育委員会）をご覧ください。